

光明皇后誕生伝説の地から国分峠を越えて -幻の千人風呂跡から母鹿の足跡石、切坂城跡地を巡る-

2 千人風呂跡の伝承地 ※民家のため立入禁止

『洗場手引草』によると仏教に深く帰依した光明皇后は大和・法華寺に浴堂を建立し、貧しい方、病気の方など千人に施浴を行い、最後の一人を洗い終わると金色の仏になったといわれています。国分寺の北側の山裾（崖下）エリアは湧水地で、地元の伝説では、ここにも光明皇后が建立した「千人風呂」があったといわれています。戦後、宅地工事を行ったさいに高野楨で作られた柱が発見され、年輪年代測定を実施すると694年前後のものと測定され、「光明皇后千人風呂の柱」として現在も国分寺に保管されています。

1 十六山羅漢寺

真言宗寺院です。寺伝では奈良時代に智海上人が開基したといわれています。境内には創建時の礎石があり、実際に境内から飛鳥時代の瓦も出土しています。また鎌倉時代に作られた大日如来坐像があります。作者は不明ですが運慶・快慶の系統に連なる慶派本流の人物によって彫られたものと推測されていて和泉市の指定文化財です。

12 こゆき食堂

ガレージの奥にある隠れたカフェです。豚の照り焼きのランチや手作りケーキなどが人気です。不定休。
場所：和泉市下宮町93-1
電話：0725-24-2982

11 横山・下宮墓地

横山・下宮地区の共同墓地です。一角に日清・日露・太平洋戦争の戦没者の墓が纏められ、慰霊の石塔もあります。

10 切坂城跡

現在でも土塁や塹壕、堀など城であったことを示す痕跡がいくつか見受けられます。戦国時代には雑賀・根来衆の拠点となり、織田信長の軍勢（秀吉の部下である中村一氏）と戦ったといわれています。中村一氏は山崎の戦い（秀吉VS明智光秀）、賤ヶ岳の戦い（秀吉VS柴田勝家）などで戦功をあげ、一時期は岸和田城主でした。天正12年（1584）、岸和田合戦のさいに雑賀・根来衆に攻められて落城寸前に追い込まれますが、大蛸に乗った僧侶と数千の蛸が現れて助かったという不思議な蛸地蔵伝説で有名です。

8 皇大宮

国分峠バス停のある通りは新道で、皇大宮がある通りが旧道の国分峠になります。江戸時代の旅人はこの道を利用して峠を越えました。皇大宮のご祭神は神武天皇（宇刀明神）で創建は元慶年間（877～885）と伝えられています。神武天皇は東征で大阪・河内に進出しますが、敵対する豪族の長髓彦と戦って敗北し、熊野方面から紀伊半島に上陸し、そこから大和・橿原に向かったといわれています。その熊野に迂回するさいに神武天皇は和泉を訪れたという伝説があります。皇大宮は和泉に残る神武東征伝説ゆかりの宮といえるでしょう。

9 国分峠

『和泉市風土記』によると、かつては茶屋、足袋宿、餅屋、足袋屋、豆腐屋などもあって大変、賑やかな場所であったといわれています。

3 護国山国分寺

高野山真言宗の寺院です。寺伝では、かつては安楽寺と号する寺院で、7世紀頃の創建といわれています。聖武天皇が国分寺建立の詔を天平13年（741）に出しますが、当時はまだ和泉国（当地は河内国でした）はなく、天平宝字元年（757）に和泉国が成立し、その後の承和6年（839）に安楽寺が国分寺に指定されたといわれています。なぜ安楽寺が国分寺に認定されたのか謎ですが、当地に残る光明皇后誕生伝説との関連を指摘する人もいます。

4 国分町町民会館・藤坂與三郎屋敷跡地碑

元は藤坂與三郎の屋敷跡でしたが国分町に土地を贈与したので記念碑が建立されています。與三郎は泉北郡山滝尋常高等小学校（現・岸和田市立山滝小学校）の校長や和泉市教育長などを務めました。また記念碑に名前が刻まれている與三郎の実子・藤坂昇は戦時中、特攻兵器「桜花」の実験・訓練部隊として編成された「神雷特別攻撃隊」（第七二一海軍航空隊）に所属しました。海軍中尉（戦死後、海軍少佐に特進）として1945年4月12日に「第三建武隊」として鹿屋基地を出撃し、沖縄周辺の米艦隊との交戦で壮絶な最期を遂げています（『太平洋戦争実戦ノート』より）。

5 白滝山浄福寺・母鹿の足跡石

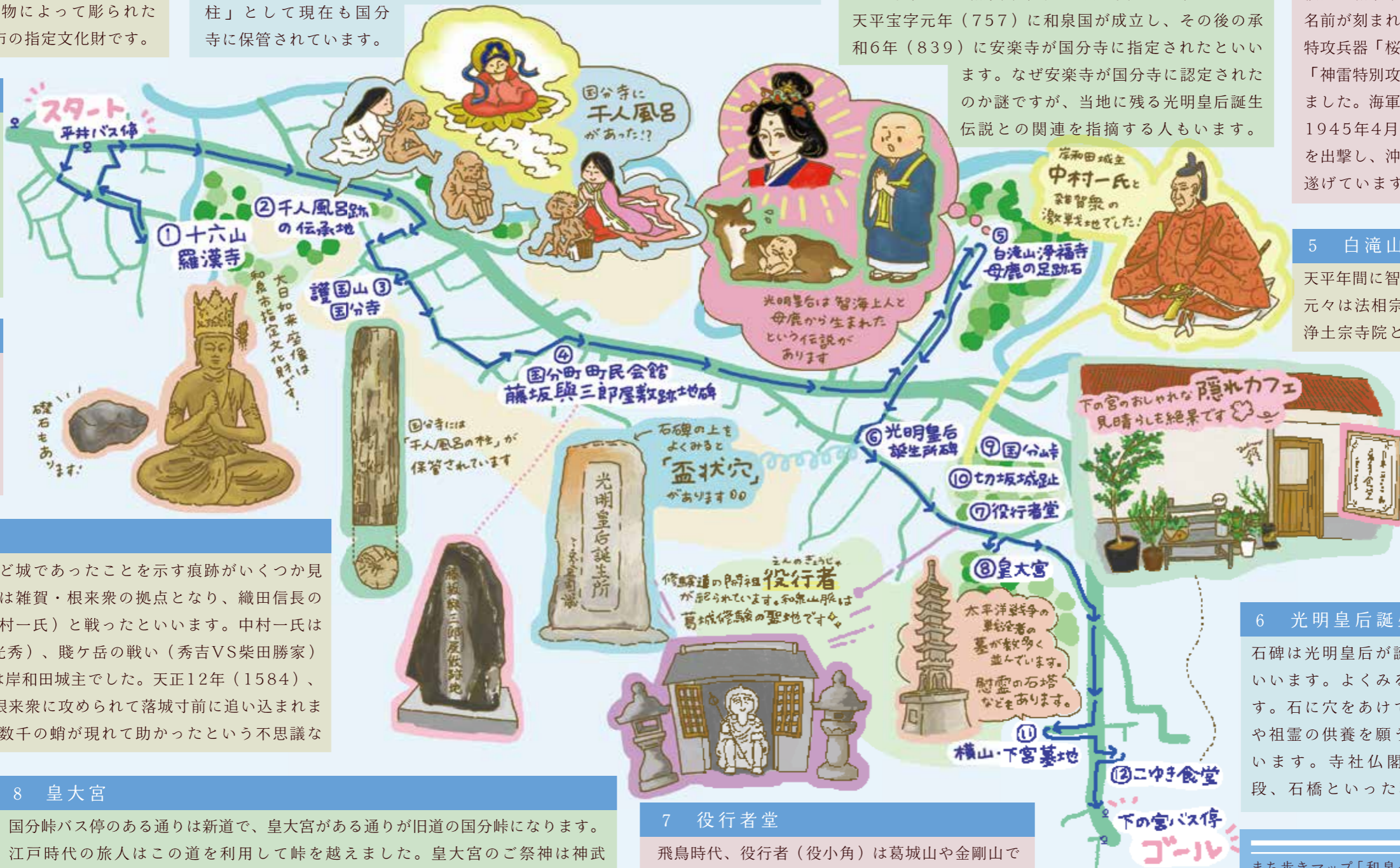
天平年間に智海上人が修行をしていたという場所で、元々は法相宗寺院だったといいますが、江戸時代に浄土宗寺院として再興されました。かつては安楽寺（現在の国分寺）の奥の院で修行の滝場があり、瀧の寺と呼ばれ、山号も白滝山といわれています。浄福寺境内の裏手には光明皇后（光明子）が都に連れられて行くとき、別れの辛さ哀しさに地団太を踏んだという母鹿の足跡が刻まれた「母鹿の足跡石」があります。

6 光明皇后誕生所碑

石碑は光明皇后が誕生した家の跡地に建てられたものといわれています。よくみると石碑の上に「盃状穴」が見られます。石に穴をあけて子孫繁栄や五穀豊穰、厄除け、死者や祖霊の供養を願うといった風習、土俗信仰といわれています。寺社仏閣の境内にある石燈籠、手水鉢、石段、石橋といった石造物によく見られるといわれています。

7 役行者堂

飛鳥時代、役行者（役小角）は葛城山や金剛山で山岳修行をして修験道の開祖となりました。役行者堂はいつからあるのかは不明ですが、現在のお堂は昭和42年（1967）9月に国分宮坂組光明講が修復したと石碑にあります。国分峠の父鬼街道は和泉山脈（葛城二十八宿。役小角が法華経八卷二十八品を埋納したとされる経塚）に繋がり、講社も多く、いまま修験道の信仰が息づいています。



まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和6年（2024）1月現在のものです。和泉のまち歩きの際にご利用ください。

プロデュース | 陸奥賢 [観光家 / 大阪まち歩き大学学長] コーディネーター | 宝楽陸寛 [NPO法人SEIN / コミュニティLab所長] イラスト&マップ制作 | 田中保帆 協力 | いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生 (むらかみあきら / 駒澤重信 / はっとりまさよ / いまづひろこ / クワハラ / 岡田喜美子 / はるパンダ / とがみくみこ)

和泉そぞろ

Izumisozoro

孝女・お照の一灯はいまも美しく煌めいて

～神武東征伝説の井戸から横山みかんの里をゆく～

坪井町地区の伝説では古代、神武東征の際に長髓彦との戦いにおいて彦五瀬命（神武天皇の兄）が負傷し、退却したときに当地に立ち寄ったといわれます。そして「解気井（さめきのい）」という名泉で傷を洗ったとか。また「貧女の一灯」で知られる孝女のお照は捨て子で、坪井に住む奥山源左衛門とお幸の夫妻に拾われて育てられたといわれます。坪井に残る不思議な伝説・伝承の地を探ります。

① 横尾街道 スタート!

横尾川に架橋している大川橋南詰に南海バス停「横尾山口」があり、道が二股に分かれますが、そこは横尾街道（東側）と父鬼街道（西側）の分岐点です。横尾川は和泉山脈の横尾山（標高 600 メートル）西麓あたりが源流で和泉市内を北上し、大津川に合流、その後、大阪湾に流れます。横尾山中にある施福寺は西国三十三所の四番札所で寺伝では欽明天皇の時代（539～571）に播磨国加古郡の行満上人が創建したという古刹で役行者、行基、弘法大師などが訪れたといわれます。横尾街道は施福寺に向かう街道で寺までは横尾山口バス停からは約 4 キロ、徒歩約 1 時間ほどです。

② 父鬼街道

堺市の鳳から和泉市父鬼町、鍋谷峠を經由して和歌山県紀の川市穴伏に至る街道です。古くから利用されており、和歌山や和泉名産の木材、炭、蜜柑などを堺・大阪方面に運びました。

③ 解気井（非公開）

彦五瀬命の傷を洗った井戸は澤久大夫家にあつたといわれます（『泉州路と河南伝説と史蹟を探る』より）。澤家は中世から当地の豪族で小高い丘の上にあることや厚重な石垣、威風堂々たる表門などで、その面影を感じることができます。かつては主屋もあり、17 世紀に遡る貴重な建築でしたが残念なことに 1997 年 5 月に焼失してしまいました。

④ 坪井八幡神社

坪井地区の氏神さまで隣には坪井児童遊園があります。境内にあるご神木のクスノキは樹高 25 メートル、幹囲 6.2 メートルという巨木で『和泉市風土記』によるとクスノキの幹囲の太さでは和泉市内第 2 位の規模を誇ります（第 1 位は松尾寺、第 3 位は宝瓶院）。児童遊園のイチヨウの木も大木で素晴らしい、必見です。

⑤ 鳳林寺 卍

真言宗寺院です。『和泉市史』によると坪井村の旦那寺は当時は仏並寺（仏並村）でしたが、坪井村には古くから長福寺があり、村人との結びつきも深かったことから元禄の頃に長福寺を旦那寺にしたいと村民が代官所に届け出て認可されたといわれます。その後、8 代將軍・徳川吉宗に子供ができると、その子が長福丸（のちの 9 代目將軍・家重）と名付けられたので、同じ名前は恐れ多いと鳳林寺に改名したと伝わっています。

⑥ 「孝女照」像

鳳林寺前にあります。お照は養父母の奥山夫妻が亡くなると、その菩提を弔うために高野山の万灯会の法要に向かいます。美しい黒髪をかざり屋に売って、なけなしのお金で一灯を献じました。その供養会にはたまたま大富豪の長者も参加していて、長者は豪華絢爛かつ自慢の灯明をいくつも献じていましたが、ふと、お照の灯明をみて、その貧相な有様に嘲りの気持ちを覚えます。すると突然、どこからか風が吹き荒れ、長者の献じた灯明は全て消えましたが、お照の献じた一灯だけは消えませんでした。長者は自分の気持ちを恥じ入り、お照の一灯は称えられ、「貧女の一灯」として今も高野山・奥之院の燈籠堂にあります。鳳林寺は奥山夫婦とお照が住んでいた跡地と伝えられています。



⑦ 坪井みかん共同貯蔵所

坪井は横山みかんの名産地として知られています。澤久大夫家に伝わる慶安元年（1648）の古文書にすでにみかんの記述があり、年貢の代わりにみかんを売って、その代金を納入したり、借金の抵当にみかん畑を提供した証書などもあります。明治時代には井上竜造という坪井出身の人物がみかん 45 キロを背負って加賀・金沢まで売りにいき、帰りは加賀の菅笠を購入し、その商売で 1 年間の生活費を稼いだとか。それを真似て和泉と加賀を往来する行商人が流行したといわれます。みかん共同貯蔵所はその巨大さに圧倒されますが、坪井のみかん産業がいかに隆盛を誇ったかを教えてくれます。

⑧ 桜泉会館

1980 年代初に日本の伝統的な建築技術で建てられたといわれます。地元の方が自宅として使用していたものが、2016 年に買収されて宿泊施設となりました。春は施設周辺の桜が咲き誇り、見事です。

⑨ 「孝女照 置き去りの地」碑

奥山夫妻は長く子供ができなくて悩んでいました。そこで子宝に恵まれるようにと横尾山施福寺に日参していましたが、その帰り道に当地にあった辻堂の軒下で捨てられたお照を拾ったといわれます。お照は立派な絹のお召しを着ていて、さらに「千代までも ゆくすえをもつ みどり子を 今日しき捨つる そでぞ悲しき」という美しい短冊が添えられていたといわれます。石碑にはその和歌が刻まれています。

⑩ 貧女橋

お照に因んで名づけられた橋です。旧道で南下すると施福寺に繋がります。かつては坪井の村人がよく利用する参詣道だったようです。

⑪ 孝女橋

お照に因んで名づけられた橋です。東は横尾山仏並線（228 号線）に合流します。道路を西に向かうと小川大野トunnelを経て父鬼に繋がります。橋を渡った東詰のところに無人のみかんの直売所があります。

⑫ 泉州一咳の地藏尊堂

由緒や起源などはあまりよくわかっていませんが、泉州一咳の地藏として地域住民に崇められています。辻や路傍にある地藏尊などの多くは石造ですが「石仏」は「せきがつ」と読みます。「せき（石）」が「せき（咳）」の意に転じて咳に効く地藏として崇められるというのは日本全国にみられる信仰です。

⑬ 日切地藏堂・カ石（溝石、茅巻石）

大畑町民会館の中に日切地藏堂があります。例えば出産予定日など「〇月〇日に出産予定日です。うまくいきますように」と日を限って祈願すると、願い事を通してくれるといわれます。また会館前に溝石（139 キロ）、茅巻石（79 キロ）の力石が置かれています。かつては力石を担ぐことが大人になるための通過儀礼で、それを持ち上げることができると一人前として認められました。力石を担ぐことができれば 10 歳でも成人で、逆に力石を担げないと 30 歳でも半人前扱いだったといわれます。

⑭ Cafe TENTO

古民家をリノベーションした隠れ家的なカフェです。葉膳プレートや酵素玄米カレーなど体に優しいランチやスイーツが人気です。

謎の飛鳥仏と幻の阿弥陀ヶ原を追い求めて

～伏屋一族・契沖ゆかりの地から天受院、石尾山弘法寺を歩く～

天受院は寺伝では古代の池田寺の七院の一つとされ、南北朝の頃に兵火によって焼失し、寛永年間に万町に移転してきたといわれます。近年、黒い厨子に入った小さな脇仏「銅造如来立像」が法隆寺の仏像に似ていることから奈良国立博物館に調査が依頼され、銅の成分から飛鳥時代のものと判明しました。和泉市内で「飛鳥仏」が発見されたわけですが、まさに万町の歴史の厚みを感じさせるエピソードです。幻の阿弥陀ヶ原や伏屋一族・契沖ゆかりの地などを巡ります。



①和泉市 いずみの国観光おもてなし処 和泉中央(無人営業)

泉北高速鉄道「和泉中央駅」構内にあります。和泉市の観光・イベント・地域情報のフライヤーなどが設置されています。タッチパネルで和泉市の情報を調べたり、モニター越しですが、おもてなし処和泉府中のコンシェルジュと対話によるご案内も可能です。

②菓子工房T.YOKOGAWA

オーナーの横川哲也氏は西日本洋菓子コンクールで厚生大臣賞や最優秀賞を受賞し、TVチャンピオン(TV東京)のケーキ職人大会、グランドチャンピオン大会、日仏大会でも優勝したという名パティシエです。和泉市を代表する洋菓子の名店です。

③いづいの家 英(はなびさ)

和泉中央地区社会協議会が地域交流の拠点として2009年に開設しました。季節のイベント、講座、手作りバザーの開催などで年間約5000人が訪れています。喫茶コーナーなどもあります。

④カフェアーノ

元は織物工場をリノベーションしたカフェです。和泉市内にはかつては1000を超える織物工場がありましたが、外国の安価製品の流入などの構造不況で減少しました。店名のマーノ(MANO)はイタリア語で職人を意味し、まさに職人技のラテアートが人気のお店です。

⑤契沖養寿庵跡

江戸時代中期の真言宗僧侶で「国学の祖」とされる契沖(1640~1701)は、寛文9年(1669)から約10年間ほど和泉で古典研究に勤しみました。当初は久井村の辻森吉行の屋敷に寄宿していましたが、延宝2年(1674)頃からは万町村の伏屋(ふせや)長左衛門重賢(1638?~1693)の屋敷に滞在し、両家にあった膨大な仏典、漢籍、日本の古典を精読し、悉曇(しったん)文字の研究などを行ったといわれます。伏屋家滞在中に契沖が起居したのが養寿庵であり、その跡地が府史跡に指定されています。

⑥鳳傳山天受院

高野山真言宗の寺院で、通称(俗称)は「小寺」といい、ご本尊は観音菩薩で厄除観音、火伏観音として知られています。近年、飛鳥仏が発見されましたが、どういう経緯で天受院に齎されたのかは一切不明です。和泉市内で最も古い仏像で、令和2年(2020)には市指定文化財となりました。現在は和泉市いずみの国歴史館に保管されています。



⑨国学発祥之地碑

契沖の祖父は加藤清正の家臣であったといわれます。伏屋一族も秀吉の家臣の子孫であったといわれるので、なにか先祖伝来の親交があったのかも知れません。また契沖は徳川光圀公の依頼を受けて『万葉代匠記』を執筆しました。その偉大な業績から『国学の祖』と褒め称えられ、それを記念して石尾中学校前に碑が建立されています。

⑧石尾墓地

代々、万町村の庄屋を務めた伏屋一族の墓があります。太田亮『姓氏家系辞書』によれば伏屋一族は豊臣秀吉の家臣であった伏屋飛騨守一安に始まるといわれます(諸説あります)。17世紀後半の当主・伏屋長左衛門重賢(1638?~1693)は契沖のスポンサーですが、文人としても知られ、俳諧師の西山宗因(井原西鶴の師匠)と交流して高野山を案内しました。また伏屋の分家筋で酒造業を営んでいた伏屋重寓の養子に入ったのが伏屋素狄(1747~1811)で、漢方医から蘭学医となり、腎臓に墨汁を注入する実験で腎臓の機能が濾過作用であることを解明しました。伏屋一族は江戸期の和泉を代表する名士・名族といえるでしょう。

⑦石尾山弘法寺

高野山真言宗の寺院で、山号は石尾山といわれます。寺伝では横尾山、松尾寺と共に「泉州の三尾」と呼ばれ、大同年間(806~810)に弘法大師・空海が横尾山登頂の際に道場として開創され、弘仁年間(810~824)に地元豪族の伏屋長者の寄進によって一字が建立されたといわれます。また脇仏の地藏菩薩は福徳地藏と親しまれ、このお地藏さまの功德で万金を持つ長者が大勢、当地に住み、これが万町村の名の由来となったという言い伝えもあります。和泉市特別文化功労者で、万町在住の日本画家・高野山画僧の藤原祐寛(重夫)氏の屏風絵も奉納されています。屏風絵は万町の「阿弥陀ヶ原の伝説」(夜な夜な発光する野原があり、見に行くと鳳凰の鳴き声が聞こえ、見ると松の枝に阿弥陀如来の仏像がかかっていたといわれます)などを織り込んだものです。また弘法寺付近(石尾中学校東交差点あたり?諸説あります)には、かつて「おどり場」があり、「近隣の村人が鼓や鉦を打ち鳴らして群集し遊戯した」(俗邑録)といわれます。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和6年(2024)1月現在のものです。和泉のまち歩きの際にご利用してください。

■プロデューサー | 陸奥賢(観光家/大阪まち歩き大学学長) ■コーディネーター | 宝楽陸寛(NPO法人SEIN/コミュニティLab所長) ■イラスト&マップ制作 | フジワラトモコ ■協力 | いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生(おらかみあきら/駒澤重信/はっとりまさよ/いづみひろこ/クワハラ/岡田喜美子/はるバンド/とがみくみこ)